

(事実上の) 首都ラパスの景色



Q. どうして協力隊に参加してみようと思ったのですか？

インドネシアの高校で日本語教師のアシスタントをする事業に参加したのですが、その経験から、更に海外で現地の人と協働するような経験を積みたいと思ったから、それと単純に、自分でも困っている人の役に立てるのであればやってみたい、と思ったからです。



市場で働く方と、ちゃんと分別してくれた方にコンポストをフレゼント。



日本人移住地の学校の先生方にワークショップをしたときの様子。

Q. 任地ではどのような活動をしていましたか？

実は私は任期中にボリビア国内で暴動が起こったために、途中で引っ越しをしました。なので、2つの任地で活動をしました。

1つ目の任地(ポルタチュエロ市)は、これからゴミの最終処分場を作ろうとしている小さな町で、その最終処分場を長持ちさせるために、市民や子供たちに3Rのワークショップをしようとしていましたが、残念ながら計画段階で任地変更となってしまいました。しかし、任地の近くに日本人移住地があったので、その学校の先生向けにワークショップをしたことがありました。2つ目の任地(タリハ市)はボリビアの中では大きな都市でした。市内で最大の市場に行き、ゴミコンテナの前で分別の指導をしていました。市場では大量の生ごみが出るので、それを分別してコンポストにするための活動でした。

Q. 協力隊に参加して、自分の中でどのような変化がありましたか？

ひとつは、以前は日本はさほど困っていない国だと思っていたのですが、任国の良さを知ったり、日本を離れた場所から見たりするうちに、日本には日本の問題があると強く感じるようになりました。

もうひとつは、任地では市役所に配属され、地元のために頑張る同僚のみなさんと働くうちに、私も地元愛が強くなりました。今後、この経験を生かして生まれ育った静岡県や御殿場市のためになることができたらと思います。

ゴミコンテナの前で一緒に働いていた大学生ボランティアと市場で働く少女。



Q. 任国のボリビアはどんな国ですか？

南米大陸の真ん中辺りにある日本の3倍ほどの面積を持った、海の無い内陸国です。日本人も一生に一度は行ってみたいと思う、あの『ウユニ塩湖』があります。標高4000mほどに位置する年中寒いところから、アマゾン近くにある熱帯気候のところまであり、それぞれの土地の気候によって食文化や生活様式が様々です。

ボリビアには戦後多くの日本人が移住して作った日系移住地が2カ所あり、そのうちの一つは沖縄からの移住者が多いためOkinawaという名前が付けられています。日系人の方々は、移住地内では日本語を話したり、味噌や醤油などの調味料を作ったり、日本の作物を栽培したりしているので、地球の裏側に居ながらにして日本の味を味わうことができます。

サンフアンという日本人移住地の入り口の前で。

ウユニ塩湖の夜明け。これが天空の鏡です。



2番目の任地タリハの名物料理「サイセ」です。



右側の大きな石でマカダミアナッツを割っていました。



Q. 任地での食生活について教えてください。

最初の任地ではホームステイをしていたので、毎晩家族とボリビア料理を食べていました。主食はパンやごはん、麺類で、おかずはとにかく毎日肉。海が無いので魚はほぼ食べません。牛の腎臓やワニの肉、アルマジロの肉といった日本では見かけない肉類も食べました。2つ目の任地では一人暮らしだったので自炊をしていました。ボリビア人はごはんを食べますが鍋で炊くので炊飯器がありません。私も鍋で上手にごはんを炊けるようになり、日系移住地から入手した調味料を使って『ごはんと味噌汁』といった和食を中心に作っていました。やはり日本の味を味わうときが、心安らげるときでした。自分で大豆を買ってきて豆腐を作ったり、移住地でいただいた小豆であんこを煮たりもしました。

個人的に、ボリビアで食べた一番おいしい食べ物は生のマカダミアナッツです。殻付きのまま市場で買って来て、大きめの石で割って食べていましたが、はちみつのような甘みがあってとても美味しかったです。

Q. 任期中のびっくりエピソードは？

昨年の10月、ボリビアでは大統領選挙があり、その直後から国内は大荒れに。道路封鎖によって約3週間もの間、期限もわからないまま私は家から出られずどこにも行けない状況に陥りました。遂には大統領亡命、アナーキー状態になり、ボランティア全員が国外退避になるかどうかという状況にまでなりました。今思うとかなり怖いですが、このときは「こんな状況、なかなか経験できない!」と思って過ごしていました。ピンチのときもポジティブ思考で乗り切ることができたのかも知れません(笑)。



民族衣装を着てカーニバルに参加したときの様子